

日交研シリーズ A-594

平成 24 年度自主研究

子育て世帯の多様なライフスタイルを実現する都市と交通のあり方に関する研究

刊行：2014 年 6 月

## 子育て世帯の多様なライフスタイルを実現する都市と交通のあり方に関する研究

### Cities and Transportation Realizing Diverse Lifestyles of Child-Raising Households

主査 大森宣暁 (東京大学准教授)

Nobuaki OHMORI

#### 要 旨

少子高齢社会に直面している我が国において、子育て世帯の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子どもが、安全・安心・快適に外出活動に参加し、多様なライフスタイルを選択できる環境を整備することが重要である。そのためには、「子供連れで外出活動に参加しやすい環境」と「子供を連れずに外出活動に参加しやすい環境」の両者を備えた都市構造および交通システムの実現と、国、地方自治体、民間事業者、NPO 等、職場、子育て世帯、その他の世帯など、多様な主体が適切に連携および役割分担を行うことが重要であると考えられる。昨年度までの研究プロジェクトにおいて、子育て中のバリア、子育て世帯の外出行動、子育てに対する意識、およびそれらの大都市と地方都市による違い等についての理解を深めたが、子育て世帯の多様なライフスタイルを実現するための都市と交通のあり方、多様な主体間の適切な連携・役割分担、そして子育てに対する人々の理解を醸成するための手法の検討等が、研究課題として残されていると認識している。本研究は、乳幼児・児童を持つ子育て世帯が、地域社会で多様なライフスタイルを選択できるために有効な都市と交通のあり方を、都市、交通、建築、福祉、教育等、幅広い視点から総合的かつ具体的に検討することを目的とする。昨年度までの研究成果を踏まえて、引き続き子育て世帯のバリアと行動実態・意識についての理解を深めるとともに、我が国の社会的文化的特性を反映した子育てしやすい都市と交通のあり方の提案に向けた理論的かつ実践的な研究を行う。

計 5 回の研究会を開催し、東京都市圏パーソントリップ調査における子育て世代の女性の交通行動、東日本大震災時の首都圏子育て世帯の帰宅困難、ドイツの家族政策とバリアフリー情報提供、子どもの生活街路における防犯安心感、子ども・子育て関連法案、子育てしやすい働き方に関するシミュレーション・ツールの開発、等の内容について議論を行い、子ども連れでの外出の視点から大阪ステーションシティの視察と子ども連れ利用者に対する調査の設計を行った。また、6 月に京都大学で開催された第 45 回土木計画学研究発表会において、「子育てしやすいまちづくり」セッションを企画し、研究会メンバー以外の参加者を交えて、子育て世帯の多様なライフスタイルを実現する都市と交通のあり方に関して多様な視点から議論を行った。

キーワード: 子育て、ライフスタイル、都市と交通

Keywords: Child Raising, Life Style, Cities and Transportation